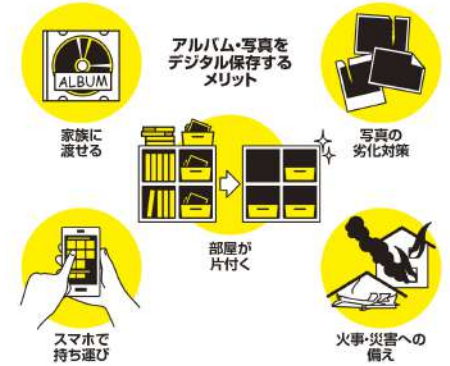


眠った思い出 デジタル化

ニッポン
写真遺産
思い出まるごと
スキャン

朝日新聞社は、家庭のアルバムやプリント写真をデジタル化するサービス「ニッポン写真遺産～思い出まるごとスキャン～」を始めました。概要を紹介するとともに、利用された方に思い出の写真を披露いただき、活用法を聞きました。

アルバム、ネガからDVDに



古い写真は、時代をうつした文化遺産です。明治・大正期の暮らし、戦前・戦中期の生活、廃止されてしまった路面電車や蒸気機関車、再開前の街並み……。今となっては撮ることができない、人々の生活の記録がそこにあります。

しかし、写真の所有者が亡くなるなど、そうした貴重な写真も捨てられてしまつていくのが現実です。朝日新聞社は、社内にある過去の報道写真のデジタル保存を進めていますが、家庭に眠る古い写真のデジタル化もサポートしたいと考え、このサービスを始めました。

アルバムやプリント写真、ネガフィルムなどを預かり、スキャンして画像データにしたうえで、パソコンで閲覧できるDVD-Rに収録し、写真ごとにお返しします。デジタル化すれば、約4千枚の写真がディスク1枚に収まります。コンパクトになって、子や孫に簡単に引き継げるほか、スマホで思い出を持ち運んだり、SNSへアップできたり、活用法が広がります。

特徴は、納期が長いかかりに料金がお得な「標準コース」と、納期の短い「お急ぎコース」を選べることと、「標準コース」には、「色あせ補正」と、写真をスライドショー形式の映像にした「テレビ用DVD」のオプションも無料でつき、価格差以上のメリットがあります。

写真の表面に日付が印字されている場合は、そのデータを画像ファイルに登録する「撮影日記録サービス」も用意。パソコン上で、撮影日順に並べ替えることも可能になります。

写真のデジタル化は自分作りの準備にも最適です。このサービスを一定額以上利用したお客様には、「朝日自史史」の割引サービスもあります。詳しくは、コールセンターへ資料請求するか、サービスの公式ウェブサイトをご覧ください。

家族の姿 子へ孫へ伝える



写真司さん 堀真弓さん



1967年ごろ、茨城県那珂湊市（現ひたちなか市）の堀さんの母の実家で。右から堀さん、いとこ、弟。「みんなで駄菓子のおまけのひげシールを付けてます」

デジタル化すると、かさばるアルバムが小さくディスクに入り、独立した子や孫へ、負担を軽減して引き継ぐことができる。「娘と1歳の孫娘に、家族の生きた証を引き継ぎたい。水戸市の堀真弓さん(67)はそう考え、アルバム4冊分のデジタル化を発注した。中でも印象的な1コマは、堀さんの子ども時代に撮影された、3人の子の「シエー」の写真。漫画「おそ松くん」に登場するこのポーズは、1960年代に幼少期を過ごした人なら、誰もが一度やったことがあるかもしれない。堀さんは「4人兄弟の

と、弟は足の向きが本来のポーズとは逆ですね」とほほえむ。堀さんの80代の両親が持つアルバムで「そのままだとかさばるけれど、デジタル化すれば小さくまとめて、コピーして同じものを娘や人に渡せば」と申し込んだ。しかも、アルバムが古く、簡単に写真ははがせないタイプだった。写真ははがさずにアルバムそのままの状態ですキャンするサービスであることも注文を後押ししたという。

新たな発見もあった。「私の幼いころと、娘の幼いころ、そして今の孫の姿が本当にそっくりだね」と皆で笑いあいました。アルバムには、堀さんの祖母、曾祖母の写真もあった。「私の孫から見ればおじいさんかおばあさんか、私なら引き継ぐことが、私ならの先祖様への感謝のしめしだと思つてござい

あせた色 鮮やか復活



色補正前 1968年夏、仏シャモニーでモブラを背景にして立つ桐生さん。後ろに並ぶ自動車の型式が時代を感じさせる。色補正後

すっかり色あせた写真も、画像データにすれば、色鮮やかによみがえる。

東京都新宿区の桐生律枝さんは、30代だった68年に欧州を旅したときのアルバムをデジタル化した。勤め先から長期休暇をもらい、約3カ月間スイス、フランスなどに滞在した。

50年前のカラー写真は劣化が進んでいた。だが、本サービスの「色あせ補正オプション」の結果を見て、「まあ、こんなに色鮮やかに戻るとは驚きを口にした。こうして見返すと、当時の思い出が次々と浮かんで来ますね」。

桐生さんは、デジタル化した画像データを、旅行間での集まりでの上映や、自分作りの準備に活用したいと話している。

お宝資料写真 新聞で紹介も



松下勝一さんの祖父、木山勝太郎さん(左)の横笛三味線を弾く故・初代鶴澤藤蔵さん

預かったアルバムなどの中に、歴史的にも貴重と思われる写真が見つかった場合、同意を得たうえで朝日新聞紙などで紹介していく予定だ。

大阪府吹田市の松下勝一さん(66)は、亡くなった父から引き継いだアルバム4冊と、約400枚のプリント写真のデジタル化を注文。その中に、貴重な一枚が眠っていた。

撮影されたのは1923年。祖父の木山勝太郎さんが生前、趣味だった浄瑠璃の舞台に出演している様子を撮った一枚だ。太夫を務める祖父の隣で三味線を弾くのは、故・初代鶴澤藤蔵さん。昭和20・30年代に人々を魅了していた。

間國宝の太夫、故・豊竹山城少嬢の相三味線として活躍した人物だ。写真の当時はまだ20歳前後で、鶴澤藤蔵と名乗っていた。

初代の孫にあたる2代目鶴澤藤蔵さんによると、浄瑠璃はそのころ、羽振りの良い旦那衆に人気があり、趣味として熱心に稽古する人も多かったという。

木山さんも、いくつかの会社を経営する資産家だった。写真を見た2代目藤蔵さんは「義太夫顔が華やかなりし頃の気分を伝える貴重な一枚です」と語った。

松下さんも「家宝になりそうな写真を発掘できました」と喜んでる。

◆この特集は、樋口慶、寺腰忍、本田靖明が担当しました。

料金例 「貼り付け式アルバム」の場合

標準コース 納期:約6ヵ月 4,000円 (税別)	お急ぎコース 納期:約3週間 5,000円 (税別)
---	--

または

1冊(60ページまで)
上記のほか、1回の注文につき基本料金1,000円(税別)と送料が必要。
ウェブサイトからの申し込みは、基本料金が無料。

資料請求・お問い合わせ
電話 03-6868-8255
(平日午前10時～午後5時)

ニッポン写真遺産 検索
<https://shashin-isan.asahi.com>